

## 2023 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	A. T		
所属	環境情報学府 人工環境専攻 荒牧研究室	学年	M2
派遣先大学	The University of Newcastle (UON)		
期間	2023/8/23-2023/9/3		

### 派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

コミュニケーションにおいて、文法などを気にしすぎなくともジェスチャーなどで伝えることは多いため、まずは自分の意見を発信し相手の意見を聞こうとする姿勢が大切。また、アイコンタクトも重要である。

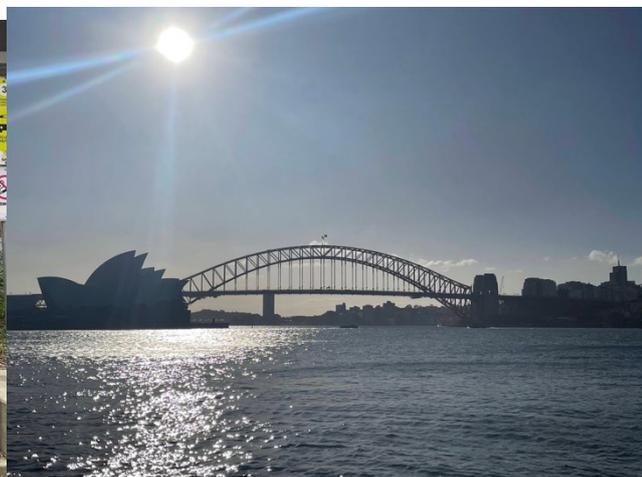
UON は NSW 州では唯一の大学で総合大学であるがその中でも工学分野と医学分野に強い。

### 派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

左側通行やメートル表記など日本との共通点も多いため、生活面で困ることはほぼない。キャッシュレス、サステナブルなどの浸透が日本よりも進んでいる。物価は日本より高く、外食すると1食あたり15 AUD 以上はすると考えた方がよい。ただし、サイズや量は日本の一回り以上ある。水は水道水も飲めるようだが、ミネラルウォーターを買う方が無難。硬度も日本とあまり変わらず(NSW 州の場合)、飲みやすい。

### 来年度プログラム参加を考えている学生へ

日本以外の文化を実際に体感する大変良い機会だと思います。また、自身の研究内容を英語で他研究室のメンバーに紹介し、互いの研究内容について議論するチャンスでもあります。オーストラリアは気候も街の環境も快適で有意義な体験が多くできます。興味があるのならば、ぜひチャレンジしてみてください。



## 2023 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	喜多 啓太		
所属	理工学府	学年	修士 2 年
派遣先大学	University of Newcastle (UON)		
期間	2023 年 8 月 23 日～2023 年 9 月 3 日		

### 派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

ツアーなどの企画が存在しないため、研修については特になし。

語学面については、現地のネイティブの人よりも留学に来ている他国からの学生の方が聞き取りやすく、話す場合でも意図を汲み取ってくれやすい。意識して文章を組み立てているためか、単語の切れ目や話すスピードなどの面で優しく感じた。

### 派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

人口ピラミッド的にも若者の割合が高く、日本と比べて大学や公共教育に特に力を入れているように感じた。例えば、大学内では学生談話室に定額のコーヒーサーバーがあり、学内巡回の乗り合いバスが存在した。夜間は一部治安が悪い地域もあるが、全体では若者が元気な印象を持った。キャッシュレス文化が強く、現金は不要。

### 来年度プログラム参加を考えている学生へ

派遣中の学習課題やツアー案内などは皆無なので、半分観光する気持ちで自ら情報を集めて予定を組む必要がある。グループワークのミーティングについても主体的に動かないとそもそもメンバーが集まらないが、多くはないため簡単に終わらせてあとは現地の名所を巡る時間に充てられる。現地では受け入れ先学生との連絡を通じ車での送迎を依頼したり、Uber や貸し自転車等の移動アプリサービスを利用すること、また支払い時にはタッチ式クレジットカードがあると移動にも便利。



2023 年度 YOKOHAMA-SXIP  
派遣プログラム参加学生の声

氏名	O. T.		
所属	環境情報学府人工環境専攻	学年	修士 1 年
派遣先大学	ニューカッスル大学 (UON)		
期間	8/23-9/2		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

派遣先だったニューカッスル大学(以下 UON)では、Global Innovative Centre for Advanced Nanomaterials (通称 GICAN) の Ajayan Vinu 教授の研究室で主に活動を行っていました。この研究室は、先端ナノ材料の研究に取り組んでおり、教員と学生含め総勢 50 名以上のメンバーがエネルギーや環境、ヘルスケアなど非常に幅広い研究領域でそれぞれ研究に取り組んでいました。

今回の派遣では、形式的な研修はありませんでしたが、研究室内のラボツアーや SXIP プログラムに参加していた UON の学生との対面グループワークを行いました。GICAN の学生との研究内容についてのディスカッションや、YNU シンポジウムへ向けた発表内容に関しての議論を通して、研究へのモチベーションの高さや研究に向き合う姿勢に感銘を受けました。私自身も帰国してからは、今まで以上に研究活動に真剣に取り組むことができるようになったと感じています。

また、副学長の Kent Anderson 先生や YNU シンポジウムでも公演して頂いた Craig Simmon 先生との対談を通して UON が行っている取り組みを知ることができました。さらに、同時期に UON へ派遣された学生とともに、オープンデイ(日本の大学でのオープンキャンパスに相当するもの)にも参加して、様々な専攻の模擬授業や大学生活について直接 UON の学生から話を聞いたことで、どんな分野の研究が盛んに行われているかを学び、YNU での学生生活との共通点や相違点についても知ることができました。

語学面に関しては、今回活動を行っていた研究室はインドや中国出身の学生が多かったこともあり、オーストラリアにいながら多くの英語に触れることができたのでとても良い機会だったと感じています。また一点反省として、派遣前にリスニング力を鍛えておくべきだったと痛感しました。とくに、話すのが速い人の話を一回で理解するのは大変で、現地の英語や研究室のインドの学生の英語は聞き取るのが難しいこともあったので、あらかじめたくさん国の英語を聞いておく、あるいはリスニング力を向上させておくべきだったと感じました。来年度以降 SXIP プログラムへの参加を検討している場合は、事前にリスニング学習に取り組んでおくとうよいと思います。

## 派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

まず、今回の派遣先だった UON は、オーストラリア南東部の NSW 州ニューカッスルにある大学で、シドニーから電車で北へ 3 時間ほどかけて向かいました。UON は複数キャンパスがあり、都市部にあるシティキャンパス(写真記載)と主要駅から 15 分ほどの場所にある Callaghan キャンパス(メインキャンパス)がありました。Callaghan キャンパスは、土地の約 8 割が緑の自然豊かなキャンパスで、YNU に少し近い雰囲気を感じました(敷地面積は YNU の 3 倍ほどあるそうです)。

文化的な面は、ニューカッスルは海外沿いの都市ということで、ビーチが特に有名でした。数多くのビーチがあり、派遣中にもいくつか訪問しました(UON の学生や教授の先生にもご厚意で連れて行っていただきました。)。また、ニューカッスル博物館にも訪問し、展示されていた現地の工芸品や主力産業である製鉄業に基づいた製鉄の模擬体験を見て歴史を学ぶことができました。さらに、ニューカッスル・メモリアル・ウォークという観光スポットにも訪問しました(写真記載)。ここは、第一次世界大戦での戦没者や兵士へ追悼・慰霊をするオーストラリアの休日である ANZAC Day(アンザック・デー)の 100 周年を記念して造られた遊歩道になっており、当時の歴史を知りながら、ニューカッスル市街の 360 度パノラマを体感できました。また、都市部の街並みは英国風の建物が多くあり、街での移動では、路面電車(トラム)が通っており、かなり快適に移動することができました。

社会的な側面を感じたことは、生活の随所に環境に配慮した製品が多かったことです。例えば、飲食店のテイクアウトでは必ず木製のカトラリーが提供され、ストローなどもすべて紙製になっており、環境配慮が日本よりも徹底されていると感じました。さらに、UON のシャトルバスも「ゼロエミッションバス」になっており環境問題への意識の高さを実感しました。

## 来年度プログラム参加を考えている学生へ

YOKOHAMA-SXIP は、日印豪の大学間での交流プログラムになっており、約 2 週間の派遣先での活動と約 2 週間の YNU での活動を含んだ計 1 か月間程度の期間で行いました。派遣前にも、SXIP プログラムに参加する現地の学生と ZOOM ミーティングを通じて、自己紹介や研究紹介をして交流活動も行うので、かなり活動としては多くなりますが、とても充実したプログラムだったと感じています。ニューカッスルやインドも、このようなプログラムを活用しないとなかなか旅行先として候補に挙がりにくい場所だと思うので、大学のプログラムを通じて訪問することができたのは、非常に良い機会でした。さらに今回派遣した 8 月はオーストラリアだと冬のシーズンだったため、海に入ることはできませんでしたが、日本の冬よりは寒くなく快適な気候だったため、避暑地として最高の環境でした。私自身も可能であれば来年も参加したいと思えるようなプログラムだったので、是非検討してみてください。

[参考]

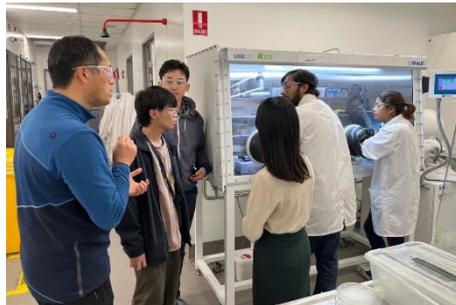
GICAN(今回活動した研究室) HP: <https://www.newcastle.edu.au/research/centre/gican>



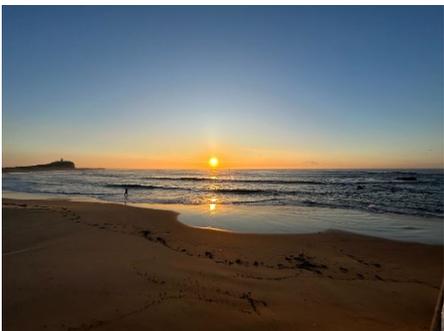
UON のシティキャンパス



UON の Callaghan キャンパス  
(写真は GICAN のあった建物)



UON での活動の様子(一部抜粋)  
(グループワーク、ラボツアー、研究室メンバーとの集合写真)



ニューカッスルの様子(一部抜粋)  
(Nobbys ビーチ、都市部の街並み、メモリアル・ウォーク)



YNU での活動の様子(一部抜粋)  
(YNU でのグループワーク、シンポジウムでのグループ発表、カルチュラルツアー)